

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	子ども・子育て支援事業計画推進事業					事務事業コード	01806
部 名	福祉部	課 名	保育課	係 名	保育総務係	部課コード	040350

1. 事業概要

総合計画コード	2111	2112	2113	2121	2122	2123	2131	2132	2133	
事業年度	H	27	年度	～	H	年度	事業類型		●ソフト事業	○ハード事業
法令等の義務付け	●法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ○義務と任意の両方を含んでいる事業 ○任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務						<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 子ども・子育て支援法			
めざす 目的成果	全ての子どもに良質な成育環境を保障し、子どもと子育て家庭の支援が推進されている。									
事業内容	平成27年から5年間の子ども・子育て支援事業計画を推進する。									
事業手法	☒ 市の完全な直営 ☐ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付 公募市民、関係団体代表者から構成された委員会により、子ども・子育て支援事業計画の進捗管理を行う。									

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			子ども・子育て会議 委員数25名 4回開催									
			単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込			
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]				3,988		344		1,064			
	財源内訳	[イ]国庫支出金										
		[ロ]県支出金										
		[ハ]地方債										
		[ニ]その他										
		[ホ]一般財源			3,988		344		1,064			
	b 人件費				3,664		1,099		1,832			
総コスト(a 事業費 + b 人件費)				7,652		1,443		2,896				
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.50 人		0.15 人		0.25 人				
		一般職非常勤職員等(時間)		時間		時間		時間				
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳		報酬 800千円 報償費 24千円 旅費 240千円										
指標名			単位	H28目標・計画		H29目標・計画		H30目標・計画		最終目標・計画		
				(H28実績見込)		(H29実績見込)		(H30実績見込)		目標年度		
活 動	①	子ども・子育て会議の回数	回	4 (4)		5 (—)		3 (—)		3 H 32 年度		
	②			()		(—)		(—)		H 年度		
成 果	①	子ども・子育て支援事業計画進捗状況	%	100 (100)		100 (—)		100 (—)		100 H 32 年度		
	②			()		(—)		(—)		H 年度		

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☒ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☐ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☒ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 子ども・子育て支援法に基づき平成27年度から5か年の計画を策定しており、施策を推進するために計画の進捗管理を行う必要がある。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☒ 活動指標の目標を達成した ☐ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☒ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 平成27年度に実施した事業の進捗管理を行なった。また、実態に即して保育園の量の見込みと確保内容を見直し、計画の修正を行った。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 全ての子どもと子育て家庭への支援を推進した。 参加と協働: 公募市民の会議への参加や会議の公開を行なった。 経営的な視点: 中長期的な視点から子ども・子育て支援事業計画を立て、状況の変化に応じて柔軟に計画の修正を行った。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☒ I 見直す余地がない	☐ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☐ その他 <説明> 子どもと子育て家庭の支援を推進できるよう計画の進捗管理を行う。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☐ A 見直して継続 ☒ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ その他 (実施時期: H 年度)		
		方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)		
子どもと子育て家庭の支援を推進できるよう計画の進捗管理を行う。				